



【本号のトピックス】

理事長所感／国際学会(IAGG／ECG)報告／委員会だより／学会だより

日本老年歯科医学会の更なる社会貢献へ

櫻井 薫

一般社団法人日本老年歯科医学会理事長

今後、日本における歯科治療の需要はう蝕、歯周病および歯の欠損や欠如などへの対応から、口腔機能低下への対応へとシフトしていくことは間違いありません。しかし、我々は地域差のあることも念頭に置いておかなければなりません。都市型では口腔衛生管理はきちんとしています。老化により口腔機能が低下してくるタイプの患者が増加し、非都市型では口腔衛生管理が滞っている状態で、そこに老化による口腔機能低下が加わる形になります。このような状況の中での本学会の役目は重大です。老化により咀嚼機能、嚥下機能、発音機能、唾液分泌機能などが、複合的に低下します。それを病気とする場合にはカットオフ値が必要になってきます。本学会としてこの値を早急に設定し、世間に提示しなければなりません。

また、認知症患者への歯科としての対応に関しても、本学会が診療ガイドライン等を出す義務があります。現在のところ「認知症患者の歯科的対応および歯科治療のあり方—学会の立場表明 2015—」を学会として提示しています（学会 Web ページおよび老年歯科医学第 30 巻 1 号）。またガイドライン委員会が、本学会会員および日本歯科医師会会員から 600 を超える認知症患者への歯科診療に関するクリニカルクエスチョ



渡辺郁馬および工藤逸郎両監事を囲んで

ンを集めて、分析をしております。これもなるべく早く結果を出していきたいと考えております。

他の学会も超高齢社会への対応と健康寿命の延伸に関して着目しています。これらのことについてのデータ収集およびその世間への広報に関しては、本学会がリーダーシップを執っていかねばなりません。

本学会では、昨年 11 月までの会員数は 3,141 名、うち歯科医師 2,501 名、歯科衛生士 423 名です。会員をさらに増加し、学会から様々な情報を提供し、逆に臨床現場からの情報を学会に吸い上げ、今後もさらに将来を見据えて、医療関係者だけではなく、社会に貢献する活動を行っていききたいと考えております。

The 10th International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) Asia / Oceania Congress of Gerontology and Geriatrics 2015 参加報告

高城 大輔

昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門

10 月 19 日から 22 日にかけて、IAGG Asia / Oceania Congress がタイのチェンマイにて開催されました。この時期のタイの気候は穏やかで、暑さもほどほどといったところでしたが、学会会場では熱気あふれる議論が行われていました。全体の参加者数は 1,115 名で、その中でも日本からは 256 名と最多の参

加人数でした。

今年のテーマは“Healthy Aging Beyond Frontiers”であり、未来に向けた発表が数多く行われておりました。研究内容としては基礎研究や疫学研究の他にも、高齢者の健康を地域で支えるための政策、計画と実践といった内容も多く見受けられました。また、広く取



り上げられていたテーマとしては日本でも注目されているフレイルやサルコペニア、そして認知症に関連したものが多く印象でした。

歯科のセッションもあり、シンポジウムでは高齢者における口腔保健ニーズや口腔と全身状態の関連についてエビデンスを交えた発表がなされていました。これらの発表では高齢者の口腔健康についてニーズはあるが、介入効果の検証などのエビデンスの十分な蓄積は今後の課題であるとも述べられていました。

ポスターセッションでは、本学会から今年度に提言された「A statement position for oral health management in elderly peoples with dementia from Japanese Society of Gerodontology (JSG): 認知症患者の歯科的対応および歯科治療のあり方：学会の立場表明」が発表されました。認知症は世界規模で患者数が増加すると見込まれているだけに、各国の方々の関心も非常に高く、盛んに議論が行われておりました。

学会の後半にはタイの伝統芸能を観賞しながらの懇親会があり、美味しいタイ料理とタイの歴史に触れな



がら、各国の研究者との活発な意見交換が行われておりました。

こうして 4 日間にわたる会期が盛況のうちに終了し、非常に得るものが多い学会でした。今回、初めてニュースレターを担当させていただき、稚拙な文章ではありますが、少しでも学会の雰囲気が伝われば幸いです。

European College of Gerodontology (ECG) に参加して

小野 高裕
国際渉外委員会委員長

ECG は、欧州規模の高齢者歯科学のネットワークであり、日本老年歯科医学会と同じく Gerodontology を公式ジャーナルとしています。Annual meeting は欧州各地で他学会との共同開催で行われますが、2015 年は 10 月 1 日と 2 日の両日、連合王国の北アイルランドの首府ベルファストにおいて、当地の Queens University の Dr. Gerry McKenna が主管し、Specialty Registrars in Restorative Dentistry Group (SRRDG) との共同開催で「Restorative Dentistry For All Generations」と銘打って開催されました。SRRGD は、連合王国とアイルランドにおける修復歯科の専門グループであり、歯周・歯内療法からインプラントを含む補綴治療全般までをカバーしており、その専門医は高く価値付けられているようです。今回は、会期を通してのポスタープレゼンテーションとともに、半日間の ECG 独自のセッション（教育講演と GABA prize 候補者の口演）、さらに SRRGD と合同で歯周、歯内、補綴の各専門分野にわたって、「From Young to Old」というテーマの下に両学会から教育講演が行われました。筆者は長年 ECG に参加していますが、今回のように融合的で有意義な企画として行われたのは珍しいという印象を受けました。会期中特に印象に残ったのは、頭



懇親会にて（左端からジュネーブ大学 Frauke Müller 先生、筆者、右端から大阪大学・池邊先生、河相広報委員長、大阪大学松田先生）

頸部癌患者の審美・機能修復について、頭頸部外科医、放射線科医、歯科医師らが一堂に集まって症例に対する治療方針を討論するというライブトークセッションでした。こうした取り組みは日本の学会でもやってほしいものです。ちなみに、ベルファストは巨大客船タイタニック号を生んだかつての造船都市ですが、その霧の深さには私も河相広報委員長も悩まされました。まさか飛行機が別の空港に着くとは・・・

2016 年の ECG は、7 月 3,4 日にパリで開催される予定です。

委員会だより

多職種連携委員会

委員長 渡邊 裕

多職種連携委員会（石黒幸枝副委員長、伊藤加代子、岩佐康行、金久弥生、米山武義、渡部芳彦各委員）では、平成 26 年度に厚生労働省老人保健増進等事業を実施し、平成 27 年度介護報酬改定の「介護保険施設等入所者の口腔・栄養管理の充実」に関する根拠を提示しました。

そして厚生労働省からは、次年度の診療報酬改定において、栄養サポートチーム（NST）に歯科医師を配置した場合の評価や、院外の歯科から歯科医師が訪問して院内スタッフと共同して栄養サポートを行った場合の評価など、医科・歯科連携推進に関する方策が提案されています（平成 27 年 11 月 4 日の第 310 回中央社会保険医療協議会）。これらは院内・院外の歯科医師と連携した栄養サポートを診療報酬として評価するもので、歯科のない病院とその地域の歯科医院の連携を促進するものです。

NST 加算は、平成 22 年度の改定で創設されています。その後、平成 24 年度改定において周術期口腔機能管理料、

平成 26 年度改定においては歯科医療機関連携加算が創設されるなど、昨今の診療報酬改定は医科と歯科の連携を推進する方向性が明確です。今回の院内・院外の歯科医師と連携した栄養サポートに関する提案も、地域で最も充実した医療資源である歯科医院の活用を考慮してのものと思われます。そして、これはまた、現在整備が進められている地域包括ケアとのリンクを想像させるものであり、平成 30 年度の医療と介護の同時改定において、その方向性がさらに明確にされる可能性があります。今後、歯科はこのような方向性をふまえて「連携の中での歯科の役割とその効果」を示していかなければなりません。

現在、本委員会では新たに採択された厚生労働科学研究費により、要介護高齢者の口腔と栄養管理のガイドラインを作成しております。会員の皆様にも連携の推進にご協力いただくことになるとと思いますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

表彰委員会

副委員長 田中 彰

本委員会は、日本老年歯科医学会表彰制度規程に基づき、学術大会における優秀口演賞、優秀ポスター賞をはじめ、優秀奨励論文賞（ライオンアワード）など各賞の選出を所掌しており、米山武義（委員長）、田中 彰（副委員長）、池邊一典、尾口仁志、菊池雅彦、山根 瞳、森田一彦（幹事）の各委員で構成されております。表彰事業が会員の皆様の日頃の研鑽や活動の励みとなり、互いの論文や発表について語り合い、高め合うきっかけになることを期待して、委員会活動を進めております。

特に今期は、いくつかの大きな改正をいたしましたので、ご紹介いたします。

「老年歯科医学賞（渡邊郁馬賞）」を新設し、会員の幅広い業績を表彰する制度がはじまりました。

「優秀奨励論文賞（ライオンアワード）」は、対象学術誌に「Gerodontology」が加わり、国際的な活躍も評価されるようになりました。

「優秀ポスター賞」は、一般部門、歯科衛生士部門、地

域歯科医療部門の 3 部門に分け、学術大会時のポスター発表を丁寧に審査し、評価できるように改めております。

また、いずれの賞も公募制となりました。会員の皆様の到達目標、さらには次なるステップアップへの足掛かりとして、是非ともチャレンジして頂ければと願っております。学会ホームページには過去の授賞内容も掲載していますので、参考にしてください。

本学会は、年々、会員の職種構成が多岐にわたってきております。それぞれの活動に光が当たるよう、また会員の荣誉となる表彰事業を目指して、今後も活動を進めてまいります。

平成 27 年度も、ご多忙の折、各賞の選考委員会委員ならびに審査員をしていただいた諸氏と大会関係者には、この場を借りて深謝申し上げます。今後とも、本委員会に対して、より一層のご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

支部だより

第 4 回 岡山支部セミナー開催報告

縄稚久美子

岡山支部セミナーは平成 27 年 10 月 22 日（日）“地域・在宅高齢者の食を支える「目」を養う”というテーマで岡山大学病院において開催されました（参加者 99 名）。

平成 27 年度介護保険報酬の改定で経口維持加算の見直しとして介護保険施設で協力歯科医療機関を定め、食事の観察（ミールラウンド）に歯科医師、歯科衛生士等が参画して経口維持計画を策定した場合に経口維持加算Ⅱが算定可能となったことから、岡山県の委託事業として企画されました。特別講演では、前田佳予子先生（日本在宅栄養管理学会理事長、武庫川女子大学教授）に地域における在宅高齢者の栄養食事指導の現状とポイントを

お話しいただき、高橋賢晃先生（日本歯科大学講師）に経口維持加算でのミールラウンドで実際に歯科医師が連携していくノウハウをお話しいただきました。ランチンセミナーは齋藤真実子先生（あいの里リハビリ苑 言語聴覚士）に介護老人保健施設での食介護の実際を教示いただきました。

また、午後からの実習では、他職種ミールラウンドを想定したワークショップを実施しました（30 名）。講演の 3 名の先生の他、渡邊和子先生（くらしき作陽大学准教授）、前川享子先生（岡山大学病院助教）、戸原 雄先生（日本歯科大学助教）、石井恭子先生（淳風福祉会栄養科課長）にファシリテータに加わっていただき、各グループで大変明るく個性的なディスカッションで盛り上がり、時間が足りなくなりました。このような他職種連携がワークショップだけでなく、地域に広がればと期待しています。

岩手支部主催セミナー報告

玉田泰嗣

岩手支部では、12月3日(木)岩手医科大学にて、「摂食嚥下セミナー2015」を開催しました。千葉俊美先生(岩手医科大学:医師)、野原幹司先生(大阪大学)、戸原玄先生(東京医科歯科大学)の3名を講師として招聘し、セミナーに参加した歯科医師、医師、臨床研修歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士、薬剤師等、合計46名に対してご講義いただきました。千葉先生からは、日常の臨床で

関わりの少ない食道期の摂食嚥下障害について、野原先生、戸原先生からはそれぞれ認知症患者および訪問歯科診療時における摂食嚥下リハビリテーションについて御講演いただきました。セミナーの後半は、座長や参加者からの質問に対して、シンポジウム形式で演者が回答しました。講演後のアンケートでは、有意義だったと回答した人が9割を超え、多くの方から高い評価をいただきました。一方で、初歩的な内容から摂食嚥下について学びたい等の意見もあり、今後のセミナーの在り方についても検討していく予定です。

学会だより

第27回学術大会演題締切迫る —平成28年2月8日(月)正午まで—

第27回学術大会の演題登録締切日が近付いておりますので、お急ぎください。

詳細は大会ホームページでご確認をお願いします。



優秀ポスター賞へのエントリーのご案内 —選考方法が新しくなりました—

会員の皆様の一層の励みとなり、老年歯科医学の知識および普及の推進を期待し、本賞は平成28年度学術大会より選考方法を新しく致します。

今後は、下記の3部門を設け、一般ポスターの演題登録と同時に該当部門へエントリーして頂きます。詳細は、学術大会ホームページでご確認ください。

- (1)「歯科衛生士部門」(2)「地域歯科医療部門」
(3)「一般部門」

受賞者には表彰状と副賞(5万円)を授与し、1次審査通過者へも表彰状を授与致します。

積極的にチャレンジしていただき、ご自身の研究や臨床活動の目標のひとつとして励みにしていただけることを期待しております。

次回学術大会時も開催します！ 第3回歯科衛生士関連委員会主催セミナー

歯科衛生研究の進め方 PART2「講義編」「演習編」
日 時：平成28年6月19日(日)

場 所：アスティとくしま

事前参加申込制

*セミナーの詳細および申込方法等については、順次、学会ホームページに掲載致します。

2015年度優秀奨励論文賞(ライオンアワード) 候補者の募集について

応募期限：2016年2月29日(月・消印有効)

1. 受賞資格

①2015年1月～2015年12月に本会機関誌「老年歯科医学」「Gerodontology」に掲載された原著論文の筆頭著者であること。

②当該論文掲載時において満50歳未満であって、2016年3月31日において、3年以上継続して本会会員である者。

2. 応募方法：自薦・他薦を問いません。他薦の場合、推薦者は本会会員に限りません。

3. 申請方法：学会ホームページで確認してください。

老年歯科医学テキストブックの決定版！ 『老年歯科医学』が発刊されました

詳細は医歯薬出版株式会社ホームページ
(<http://www.ishiyaku.co.jp/search/details.asp?bookcode=457890>) にアクセスをお願いいたします。

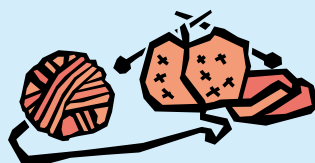


編集後記

ニューズレターNo.22をお送りします。今号はたくさんの情報を盛り込みました。詳細は学会HPでもご確認ください。

国が推し進めている保健・医療・介護の連携を基軸にした地域包括ケアシステムの目的は、健康寿命の延伸です。健康を守る秘訣は、幾つになっても自分の口で美味しく食べ続けることです。訪問栄養士として、その健康を守る歯科と栄養の質の高い連携を、これからも目指していきたいと思っております。

(奥村圭子)



発行人 櫻井 薫

編集 日本老年歯科医学会広報・研修委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

駒込TSビル (一財)口腔保健協会内

電話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341